

2015年3月期 第1四半期決算 IR 説明会ネットカンファレンス(2014/08/04 開催) 質疑応答内容

Q: 1Q での一過性損益の金額と、その一過性損益が見通しに織り込まれていたかどうかを教えてください。

A: この 1Q での非経常損益は殆どなかった。前年同期については、機械部門で船舶関連で引当金を計上したほか、エネルギー・金属部門で石油権益の廃坑費用を計上した。一方、プラスサイドでは、ショッピングセンターの売却益もあり、これらをネットすると数億円のプラスだった。

Q: 1Q 実績を踏まえ、今後の収益見通しをどのようにみているか、教えてください。

A: 1Q 実績は当期純利益見通しに対し 27%と、順調な進捗となった。しかし、ベネズエラの自動車事業や今後の石炭価格推移については注視しなければならないとみている。一方、ニッケルなどの合金鉄関連やエネルギー関連の価格が当初の予想より上回って推移していることから、全体としては、プラスとマイナスが相殺され、通期見通しは達成できるとみている。

Q: この 1Q での新規投融資と資産圧縮の主な内容について教えてください。

A: 1Q の新規投融資はディスバースペースで 210 億円の実績となった。その実績の約半分が機械部門で、米国の自動車ディーラー買収、太陽光発電プロジェクトなどが主なもの。一方、資産圧縮の実績は 270 億円で、不動産関連の売却などが主なもの。

Q: 機械部門の 1Q での進捗率が低いですが、通期見通しに対する見方について教えてください。

A: 機械部門は、プラント関連や航空機関連、産業情報関連子会社の収益貢献が下期偏重型で、売上計上のタイミングが下期に集中するとみている。従い、通期見通しは達成できるとみている。

Q: 自動車事業の足元の状況について教えてください。

A: 自動車事業全般では、ベネズエラ、ウクライナ、ペルトリコの業績が低調である一方、タイの事業は概ね巡航速度、フィリピンの事業は好調に推移している。ロシアも現状、堅調に推移している。従い、自動車事業全般としては、概ね見通し通りとみている。

Q: ベネズエラの自動車事業の足元の状況について教えてください。

A: ベネズエラでは外貨送金規制が継続している。一方で、現地通貨のボリバルと米ドルとの交換について、オークション形式で実施された。この外貨発給を目的としたオークションの今後の開催予定が不透明であることから、現地当局との間で、潤沢なドル供給について交渉を行っている。

Q: エネルギー事業の通期の見方について教えてほしい。

A: 米国メキシコ湾と英国北海での石油・ガス権益事業は、今期において大きな利益は見込んでいないものの、計画に対して巡航速度で進行している。

Q: 石炭価格が下落基調にあるが、今後の石炭事業の見通しについて教えてほしい。

A: 石炭に限らず、石油、合金鉄等の権益事業は、コスト削減を徹底し、効率的にオペレーションができるよう取り組み、効果も出てきている。

Q: 主要な金属ビジネスについて、足元の推移をどう見ているか教えてほしい。

A: 合金鉄関連の見通しについて、モリブデンは期初の想定よりも高い価格で推移しており、堅調。ニッケルは通期見通しに対し、若干の上振れで見ている。

Q: 肥料事業の足元の状況について教えてほしい。

A: タイの肥料事業は、前政権におけるコメ政策の行方が一時心配されたが、現政権も現状、このコメ政策を堅持しているため、当初懸念していた程度の収益減少とはならず、タイの肥料事業は概ね見通し通り。ベトナム、フィリピンも予想を上回る進捗状況で、通期見通しを達成できると見ている。

以上